

中部ブロック会報 第28号

平成25年度中部ブロック研究会【1日目】2014年1月11日(土)【2日目】2014年1月12日(日)

開催地: 金沢アイ・ティー・ビジネスプラザ武蔵 〒920-0855 金沢市武蔵町14-31

【平成25年度・中部ブロック研究会を終えて】

ブロックリーダー 米本倉基



平成25年1月11日・12日の2日間、金沢市ITビジネスプラザ武蔵において、今年度ブロック研究会が開催され、今回も、会員等30名、プレゼンテーション・コンテスト出場学生8組9名、そして金沢学院短期大学の学生スタッフを加えた大変賑わいのある研究会となりました。

今回の目玉はなんといっても新企画の2つです。まず、初日に基調講演として初年次教育でも有名な金沢工業大学の藤本元啓教授をお招きできたこと。そして2日目の朝に、中部ブロックのメンバーによるモーニング・ワークショップと題して「サービス実務入門の授業への導入スキル勉強会」を開催できたことです。

どちらも初めての試みだったので、手探り状態でしたが、大きな成果があったものと考えます。藤本元啓先生とのご縁をつくっていただきました金城大学短期大学の岡野絹枝先生に感謝申し上げます。また、ワークショップのメンバーであった愛知東邦大学の手嶋慎介先生はじめ、河合晋先生、加納輝尚先生、奥村実樹先生、お疲れ様でした。

さらに、今回も東京の学会本部から事務局局長であります自由が丘産能短期大学の風戸修子先生にご参加いただきました。とても嬉しく、心より感謝申し上げます。

今年も新年スタートに相応しい実り多い研究会となりました。開催準備にご尽力いただきました運営委員の先生方、地元で何かとコーディネートいただきました岡野大輔先生、幹事校として多くの学生スタッフを動員していただきました國田千恵子先生にこの場を借りまして厚くお礼申し上げます。

【基調講演】

金沢工業大学 教授/文学博士 藤本 元啓 先生

テーマ「初年次教育の在り方と今後」

座長 岡野 絹枝 先生 (金城大学短期大学部)



米本ブロックリーダーから、「初年次教育」の特別企画を組みたい熱い想いを聞きました。初年次教育学会の事務局がある金沢工業大学が今回の研究会開催地にあることと想いが重なって、学会事務局長の藤本先生に基調講演をお願いすることが叶いました。

藤本先生は、溢れ出るような濃い内容を、所定時間の中で分かりやすく語ってくださいました。まず、学生のキャリア形成プロセスで、スチューデントスキルとして学生に何を身に付けさせたいのかを明確化する必要があります。そして、学生が自分の達成度や評価を知り、次に繋げるためのポートフォリオ等のPDCAシステムが必要です。また、学生が主体的に学修するためには、PBL型授業やアクティブラーニングが有効です。これらを可能にするためにしなければならないこと、それは、私たち教員が新しい方法を積極的に学ぶ姿勢と実践する努力であると痛感した基調講演でした。ありがとうございました(座長、岡野絹枝)。

モーニング・ワークショップ【「サービス実務入門」の授業への導入スキル勉強会】

手嶋慎介(愛知東邦大学)、奥村実樹(金沢星稜大学)、加納輝尚(富山短期大学)、河合晋(岡崎女子短期大学)



本ワークショップ(『テキスト「サービス実務入門」の授業への導入スキル』)は、2013年度JAUCB受託研究(『学生の学びを深める学習法の研究—サービス実務における学習法』)として進行中である共同研究の中部ブロック所属メンバー(奥村実樹、加納輝尚、河合晋、手嶋慎介)によって実施された。米本倉基ブロックリーダーには企画の段階からご助言をいただくなどの多大なご支援をいただくことができた。

受託研究の中間報告的意味合いも含めたため、具体的なテキスト使用方法や「サービス実務」に特化した教授法という点では不十分なものであったものの、高等教育においては比較的目新しい手法(「ジグソー法」など)を応用するなどを提案させていただいた。

また、参加者の皆様には、丁寧にアンケートにもご回答いただくことができ、今後の共同研究に関して重要なご意見をいただくことが出来た。この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました

研究発表【学生の汎用能力の成長と学科ディプロマポリシーとの関係からみたインターンシップのあり方についての一提言】

加納 輝尚 (富山短期大学)



本研究は、富山短期大学経営情報学科におけるインターンシップの取組みを整理した後、学生125名(平成25年度1年生、有効回答率90.4%)を対象に実施したアンケート調査に基づき、今後の本学のインターンシップのあり方に関し考察をする目的で行った。その結果、インターンシップに参加することによる汎用能力(ジェネリックスキル)育成効果と、学科ディプロマポリシーに基づく学習成果(ラーニング・アウトカムズ)とは、全体としては同じ傾向を持っていたが、ビジネス実務で求められるジェネリックスキルである「付加価値を付ける能力」及び「バランス感覚」を伸長させるようなプログラムの導入を検討すべきであるとの結論に達した。今後の課題は、ラーニング・アウトカムズの評価基準が適切であるかどうかの検証を継続するとともに、アンケートの調査・分析手法の精緻化を検討することである。

研究発表【ビジネス実務“法”教育の試み】

岡野 大輔 (金城大学)



従来より秘書学・ビジネス実務教育の領域において提供されてきた法的知識は、実務との関連性やその内容の妥当性について未整理のままであるといえる。そこで、秘書学・ビジネス実務教育が有する実践科学及び課題解決科学としての側面に着目し、「法教育」「法学教育」に関する議論を援用しながら、実務的視点に基づく「法務教育」という概念の措定を試みた。そして、これら3つの教育を連続的・重層的に捉え、ビジネス実務教育における法教育「ビジネス実務法教育」のあり方について考察を行った。今回は、ビジネス実務法教育実践の試みとして、従来型の法学体系と記述方法を再構成した教材を作成し、ビジネス実務等を学ぶ学生を対象とした法学系の授業での展開方法を報告した。今後も、「ビジネス実務法教育」における具体的な教育内容の有用性について検討した上で、秘書学・ビジネス実務教育における法的知識とそのスキルの習得方法について考察していきたい。

研究発表【ワーク中心のインターンシップがもたらすスキル】

佐久間 潔 (修文大学短期大学部)



本学では本年度からインターンシップの授業構成が変更になった。従来、通年であった講義30コマ+実習80時間の「インターンシップ」(2単位)が、「インターンシップⅠ(1単位)」、「インターンシップⅡ(1単位)」、「インターンシップ実習(2単位)」となった。そこで後期科目である「インターンシップⅡ」の授業展開を学生に頭や体を最大限使わせるといふ意味のワークを中心とした授業展開に変更した。後期の対象者は、オフィス秘書コースの1年生、在籍者11名である。授業では、メッセナゴヤ2013参加による社会人との接触、ビデオ撮影と閲覧・検証、カルテ書き、輪読、等のワークを実施した。これらのワークが、社会現場で必要なコミュニケーション能力を7つ要素に分解した、1.聞く力、2.考える力、3.話す力、4.読む力、5.書く力、6.積極的になる力、7.チームで働く力、のうちどの力を向上させるのかを意識調査、検討し発表した。

研究発表【課題解決型プロジェクト教育の現状と課題—経営学教育の視点から—】

奥村 実樹 (金沢星稜大学)



高等教育機関(大学・短期大学)において、PBL(Project Based Learning)の、より狭義の教育形態である、学外で学生が何かを実際に体験することで学ぶ教育(本発表では「課題解決型プロジェクト教育」と呼ぶ)が、2000年代に入り増加傾向にある。その主要な理由は2つある。1つは、その教育が持つ特徴である、受動的ではなく主体的に学習者が関わる、いわゆるアクティブ・ラーニング的教育効果への期待である。もう1つは、地域活性化に貢献しうる活動としての社会的評価の高さと、そこから生まれる新聞などメディアに取り上げられるパブリシティ効果への期待である。当該分野に関連する先行研究は、その具体的な教育活動を紹介するものがほとんどであるが、本発表では、それらの活動の「全体像」をとらえることに重点を置いている。その教育の特質について長所を中心に述べ、その後、内包する課題について指摘した。

研究発表【学生主体における秘書技能検定1級面接試験の指導体制—学生指導者に与える効果—】

中原亜紀美(金城大学短期大学部) 田村久美(川崎医療福祉大学) 中村健壽(川崎医療福祉大学)



本研究の目的は、学生を主体とした秘書技能検定1級面接試験における指導体制の効果について明らかにすることである。川崎医療福祉大学の医療秘書学科では、学生主体の活動である「秘書検定サークル」を立ち上げ、秘書技能検定の面接指導を行っている。本発表では、この取り組みで想定される効果(1級合格時レベル維持や就活への士気など)の検証およびサークル活動経験が就職後、どのように活かされたかを明らかにするために、学生指導者を対象とした質問紙調査を実施した。その結果、いずれも効果が得られた。また、就職後も継続してサークル活動の経験を活かすことができる可能性が示唆された。このことから学生主体における秘書技能検定1級面接試験の指導体制は、学生指導者にとって有用な指導体制であると考えられる。今後は、指導体制のさらなる有用性を検証するために、受験者への調査を実施し、相乗効果の有無について明らかにすることが課題である。

用な指導体制であると考えられる。今後は、指導体制のさらなる有用性を検証するために、受験者への調査を実施し、相乗効果の有無について明らかにすることが課題である。

研究発表【ゼミ活動におけるPBLの課題について】

河合 晋 (岡崎女子短期大学)



本学科ではPBL(Project Based Learning)が実施されていない。そこで、一部の教員で始めたのが、ゼミ活動における「地域貢献型PBL」である。本発表では、その成果やそこから浮かび上がる課題について検討した。ポータルサイト「岡崎コレクション」制作は地元メディアに取り上げられ、「高齢者向けタブレット講習」は学生プレゼンテーションが評価され助成していただけるなど、一定の対外的成果があった。また、学生においても「付加価値を付ける能力」などが伸長したと解する結果を得た。しかし、当初の成果物の完成度が低いことから、事前学習で質の高いアクティブラーニングと、それを裏付けるPDCAに基づく綿密な授業設計が必要であり、また、教育目標およびラーニング・アウトカムズに関する客観的指標を持ち合わせていないことが、計画的PBLの阻害要因だと実感した。今後、本学科のPBLの展開において、ディプロマポリシーやカリキュラムポリシーと連携させるべく基本設計と、評価指標の設定が急務である。

な授業設計が必要であり、また、教育目標およびラーニング・アウトカムズに関する客観的指標を持ち合わせていないことが、計画的PBLの阻害要因だと実感した。今後、本学科のPBLの展開において、ディプロマポリシーやカリキュラムポリシーと連携させるべく基本設計と、評価指標の設定が急務である。

研究発表【医療機関における経営者の秘書に望まれる資質について—実態調査より—】

黒木 由美 (名古屋経営短期大学)



医療機関には、業務が多角的、多様化している経営者の機能の一部を補佐し、代行する職能を持つ秘書組織が存在する。本発表では、医療機関における経営者の秘書の資質に焦点をあて、望まれる資質を明らかにするとともに、追ってアンケート調査を実施した企業の秘書と比較し、医療機関における経営者の秘書に望まれる特有の資質について考察を行った。医療機関における経営者の秘書には「責任感」が最も望まれている傾向があった。また、企業における秘書との比較では、両者において「責任感」が最も望まれていた。医療機関では「記憶力」「積極的」「愛嬌」「先見性」「企画力」について企業より望まれており、「几帳面」「慎重」「誠実」「自己コントロール」などについては企業の方に

より望まれている傾向があった。今後は、さらに医療機関における調査を重ねて、補佐の対象となる経営者の業務内容をも視野にいれた、深い考察を行うことを課題としたい。

【学会員懇親会 & 学生パーティー】

運営委員 西川 三恵子(名古屋経営短期大学)



金沢学院短大の皆さんがホスト役の学生交流パーティー

今回は3年ぶりに北陸地区でのブロック研究会とあって、金城大学の岡野大輔先生を中心に北陸の先生方でキトキト重視の懇親会場を厳選していただき、近江町市場に隣接する近江町いちば館の“市の蔵”近江町店で開催されました。その際には基調講演の講師 金沢工業大学 藤本元啓先生と関東・東北ブロックならびに学会事務局長でもいらっしゃる風戸修子先生もご参加くださり、総勢20名が前菜に加賀レンコンのきんぴらに始まる北陸の海の幸・山の幸のコース料理に舌鼓を打ち、お座敷の掘りこたつスタイルも相まって、まさに和気藹藹とした2時間の懇親会でした。シメはご尽力いただいた金城大学の岡野大輔先生の本締めとなり、2日目のモーニングワークショップに向けてお開きとなりました。また今年は金沢学院短期大学の学生スタッフの皆さんが学生プレゼン参加の学生との懇親会をご計画くださり、教員と同じいちば館のイタリアンレストランで引率教員と発表学生同士で打ち解けた懇親会が開かれたとの報告がありましたことを追記いたします。

【学生プレゼンテーション・コンテスト】

審査委員長 川口 直子(愛知学泉短期大学)

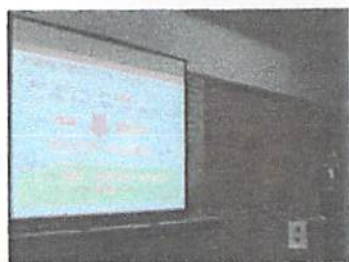


最優秀賞: 善哉なつき(清泉女学院短期大学1年)

優秀賞 : 松井菜摘(金城大学短期大学部1年)、犬嶋愛海(富山短期大学1年)

奨励賞 : 田中茅佳(金城大学短期大学部1年)、中村麻友(富山短期大学1年)

筒井星良(名古屋経営短期大学1年)、市川千遥(名古屋経営短期大学1年)



最初に、参加学生の当日までの準備に対する熱意と粘り強さに敬服の意を表します。今回の発表内容は、一応にインターンシップやボランティア活動をとおして、学んだこと・自信をつけたこと・就業意識などについてでした。学生にとって身近な内容であり、話しやすい題材ではありましたが、それゆえに聴き手にアピールする構成・話し方のスキルが要求されました。審査ポイントは、①説得力・印象②内容③コミュニケーション力④機器操作の4項目で5段階評価を行いました。結果、評価の良し悪しの決め手となった項目は、①と③でした。笑顔・明るい声・明確な発音・凛とした立ち姿、内容に合った話し方・ジェスチャーなど、聴き手をいかに惹きつけていたかが、キーとなりました。優秀賞の学生のプレゼンは、まさにすべての点において満足できるものであり、他の学生の良いサンプルとなったと思われます。参加学生のみなさんが、このコンテスト参加をきっかけに、新しいことに挑戦する喜びを感じ、さらに成長されることを強く願っています。

【初夏の北海道 全国大会に参加しよう!】



【2014年全国大会】に参加・発表しよう! 詳細は第1号通信を。

<日時> 2013年6月14日(土) 10:00~15日(日) 12:15

<場所> 札幌国際大学 (札幌市清田区清田4条1丁目4-1)

<統一テーマ> ビジネス実務教育と就業力育成 II

【編集後記】

ブロック・サブリーダー 國田 千恵子(金沢学院短期大学)



日本経済が回復し、新規学卒者の就職内定率にも改善の傾向がみられ、ミスマッチ失業者も減少したとの報告があります。しかし、新規学卒者の早期離職者が一定数存在することや非正規雇用の問題等、山積した課題に対し、キャリア教育を担うビジネス実務学会の果たすべき役割は益々重くなっています。研究会当日の北陸金沢は雪模様で、皆様を歓迎するには寒い日でしたが、会場は初年次教育の在り方に関する講演や学生主体の授業方法等の研究発表で、熱気に溢れる二日間でした。今後も中部ブロック研究会がますます発展することを願っております。最後になりますが、会員の皆様の温かいお人柄に深謝するとともに、このたび、ご執筆くださった先生方へ厚く御礼を申し上げます。